

株式会社ゆうちょ銀行 様



TS51210RH2412



TS71210RH12012



OP-TSON-H5Y/DNR

約1300台の業務用PCにVDIを導入し、ログとデータをNASにバックアップ。社内システムの安定動作とデータ保全の冗長性を強化

導入先プロフィール (2025年9月現在)

施設名 株式会社ゆうちょ銀行
所在地 〒100-8793
東京都千代田区大手町二丁目3番1号
URL <https://www.jp-bank.japanpost.jp/>



業務やサービスなどにおいて、積極的なデジタルシフトに取り組んでいる株式会社ゆうちょ銀行(以下、ゆうちょ銀行)では、2019年より段階的に仮想デスクトップインフラストラクチャ(VDI)の導入に取り組んできました。2023年にNASを導入し、VDIのログ保存やデータ転送による拠点を隔てた冗長化を実装。また2025年には、窓口で受け付けた事務の後方作業に使用する約1300台の業務用PCを仮想化し、常時2世代分の仮想マシンの二次バックアップ先にもNASを使用。セキュリティの強化、運用管理の効率化を実現しました。二次バックアップに信頼性の高いバッファローのNASを導入することで、万一のトラブル発生時にも事業継続性の高い環境を作ることができました。

導入前の課題と効果

課題

- ・VDIを運用するにあたり、データを信頼性の高いNASにバックアップしたい
- ・故障の発生率が低く、オンサイト保守のサービスがある機器を選定したい
- ・バックアップを冗長化するにあたりコストも抑えたい

対策

二次保存先のNASとしてバッファローのNASを導入。
オンサイトとデリバリー対応が可能な保守パックがあることや、
コストパフォーマンスの良さ、国内メーカーらしいフォロー体制の厚さも決め手に

効果

- ・2023年の第一次導入以来、主だったトラブルもなく安定稼働
- ・バックアップを冗長化することで、安心感が強化された



選定のポイント

日本企業として市場での信頼性が高く、保守体制も充実。故障の少なさ、オンサイトとデリバリー対応が可能な保守パックが決め手

お客様インタビュー

株式会社ゆうちょ銀行
システム部門
システム開発第一部
主任
上保 想剛氏

株式会社ゆうちょ銀行
システム部門
システム開発第一部
グループリーダー
荻島 竜二氏

株式会社ゆうちょ銀行
システム部門
システム開発第一部
主任
宮澤 需氏



23台のサーバーで構成されるVDIのログの冗長化をNASで実装。業務用PC 1300台のVDIクライアントをNASに仮想マシンバックアップし、確実なデータ保全環境を構築

概要

- VDIを構築しNASにログをバックアップ
- 二重バックアップでデータ保全を実現

VDIを構築し、

複数システムのPCを仮想デスクトップ化

ゆうちょ銀行では、セキュリティの強化と、各端末のWindowsアップデートの作業コスト、サービスにアクセスできないなどの互換性の問題や接続不能リスクの回避のため、VDI(仮想デスクトップインフラストラクチャ)を構築。特に2025年にはバックオフィスの事務業務に使用するPC約1300台をVDI化し、HCI(ハイパーコンバージド・インフラストラクチャ)上の仮想ストレージとNASに二重バックアップし冗長化。仮想マシン(以下VM)のバックアップをバッファローのNASに二重バックアップすることで、データ保全と事業継続性向上を実現しました。

目標・課題

- 業務用PCのセキュリティ強化
- ログやデータを確実に保全したい

セキュリティを強化しトラブルを防ぎたい

「我々の業務において、セキュリティに関しては特に重要ですから、少しでも強化できるように措置を講じる必要があります。また、PCのOSアップデート時に、ブラウザのバージョンなどの互換性により、業務を行うためのシステムに接続できないという問題も解決する必要がありました。」と株式会社ゆうちょ銀行 システム部門システム開発第一部グループリーダー 荻島 竜二氏(以下、荻島氏)は話します。

ログファイルの冗長化と、

VMのバックアップの保全が必要

そこで決定したのがVDIの導入でした。それに伴い、サーバーの設置拠点を隔てたログファイルの冗長化、またデータ量の多いVMのバックアップ装置が必要でした。「初めはディスク装置も検討していましたが、読み書きのスピードや冗長性を考え、NASに決めました。また、保守対応が可能なことも必須条件でした。」と荻島氏は話します。

解決策

- VDIを構築しセキュリティを強化
- 2次バックアップにバッファローを選定

1台当たり約30GBのデータを2世代分保管

2019年より段階的に業務用PCにVDIを導入。そのVM総数は約2900台におよび、最終的に23台のサーバーを構築しました。特に2025年にVDI上で仮想化した事務業務用PC1300台は、全台バックアップを保管する必要があり、1台あたりおよそ30GBのデータ量が見込まれますが、2世代分をバックアップすることとしました。

複数のTeraStationを導入してデータ保全

そのVMバックアップおよびログデータの保管先の一つとして、合計6台のバッファローのTeraStationと、保守バックOP-TSON-H5Y/DNRが導入されました。「機種選定の決め手となったのは、信頼度の高い国産の機器であること、USBメモリやハードディスクなどで身近で知名度が高く、故障率が極めて低いと評価されているメーカーであること、そしてメーカーのオンサイト保守があることです。」と荻島氏は話します。万一のトラブル発生時にも、業務をストップさせないことが最重要なので、オンサイト保守があることは非常に重要でした。

効果

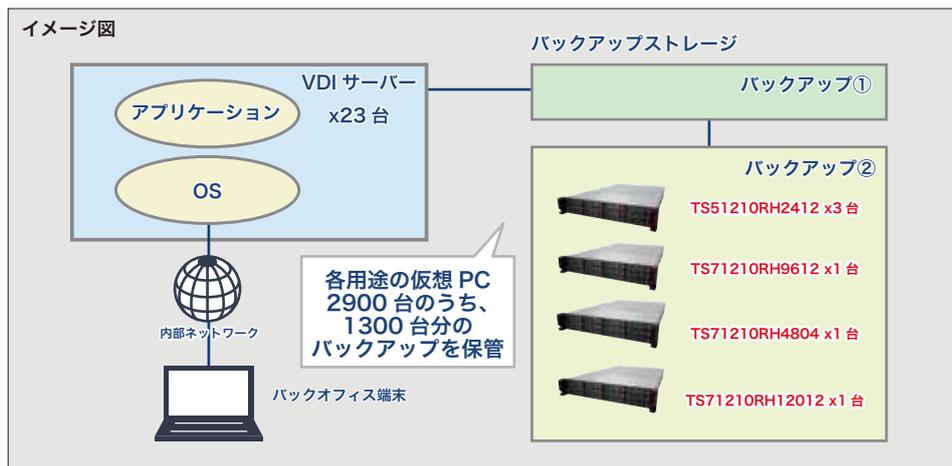
- VDIによりセキュリティが強化された
- 業務継続に関するリスク回避を実現

トラブルなく稼働してこそバックアップ

最初の機器の導入から2年が経過し、今年の5月に追加分を設置しました。「メーカーとしての信頼性の高さやコストパフォーマンス、保守プランの内容などのバランスからバッファローのNASを提案しましたが、期待通り何のトラブルもなく稼働しています。」と、システム構築を担当した株式会社日立製作所の前田 向氏は話します。「VDIの導入でセキュリティが強化され、OSアップデートの際のトラブル対応からも解放されました。2世代分のVMのデータやログが安全にバックアップされていることで、万一の際にも業務ストップのリスクが回避できる安心感は何物にも代え難いですね。」と荻島氏は話してくれました。



合計6台のTeraStationに常時2世代分のログデータをバックアップ。



2019年から段階的にクライアントPCとVDIサーバーを増やし、最終的に23台のVDIサーバーを導入。23台分のVDIサーバーのログデータと、常時2世代分の仮想マシンのデータを保管。一次バックアップはHCIに、二次バックアップに合計6台のバッファローTeraStationを導入している。

●取材協力: 株式会社日立製作所

導入商品

TeraStation TS51210シリーズ
10GbE標準搭載
法人向けNAS
12/4ドライブ
2Uラックマウント



TS51210RH2412



TeraStation TS71210シリーズ
Intel Xeon・10GbE搭載
法人向けNAS
12/4ドライブ
2Uラックマウント

TS71210RH12012



オンサイト保守5年
HDD返却不要パック

OP-TSON-H5Y/DNR